

〈2020年度長野大学研究助成金による研究報告〉

(準備研究)

重度精神障がい者の一般企業への 就職・職場定着に関する研究

—新型コロナウイルスの影響を受けている企業へのインタビュー調査から
社会的弱者と言われる障がい者雇用の在り方を捉える—

片山 優美子* 中尾 文香** 佐々木 絢子***

Yumiko KATAYAMA Ayaka NAKAO Ayako SASAKI

1 研究実績の概要

国内の重度精神障がい者を対象にした職場定着に着目した研究は申請者しかおらず、その手法は科学的根拠を持った実践Individual Placement and Support (個別職業紹介とサポート)である(片山:2017・2020)。しかし、現在新型コロナウイルスの影響により障がい者や派遣社員など社会的弱者が就職した企業から、休職を求められたり解雇されたりする状況が発生している。そのため、このような社会的情勢であっても障がい者雇用を企業内に位置づけ、健常者と変わらなく雇用をしようと考えている先駆的な企業から雇用の在り方を導き出すことを目的として、本研究を実施した。

本研究期間で実施した具体的な内容は主に、社会的情勢を受けて新型コロナウイルスの影響による障がい者雇用の在り方について探索すべく国内外の書籍・文献から先行文献研究を行い、一般企業への就職・職場定着に関する支援方法や新たな社会における役割の在り方に関する視点を探ることを行った。

新型コロナウイルスの影響による企業の減少や業務の変更があっても障がい者雇用を継続的に考え、従業員を変わらなく雇用の継続を実施している先駆的な企業へのインタビュー調査を実施した。具体的には、申請者らが障がい者と企業の双方における対話の重要性を明らかにした、以前実施した障がい者の職場定着に関する研究(片山:2017、ディーセントワーク・

ラボ:2019)で知り得た、先駆的な企業4社からスノーボール方式で計11社のインタビュー調査を行った。11社の企業の経営者などの方々からインタビュー調査を実施することができた。

具体的なインタビュー調査の内容は、基本属性と半構造化面接と構造化面接を作成した。基本属性は従業員数、障がい者数とその内訳、精神障がい者の疾病名と精神障がい者の最長の雇用歴、業務内容のうち障がい者が担当する業務内容である。次に半構造化面接の内容は、障がい者雇用に関する質問(コロナの影響前後の違いについて)として、以下4点とした。1. コロナの影響前後での障がい者の職種・業務の変更はありましたか。どのように変化しましたか。2. コロナ後の会社内外において、変わったことはありますか。あるいは変えようと思っていることはありますか。3. 社内での障がい者雇用の現場と経営者との考えはどのようなものでしょうか。現場と経営者の考えに相違はありますか。4. 御社で、経営上の判断として指針をお持ちですか。具体的に教えてください。最後に、構造化面接として、a.御社で実施している障がい者雇用における配慮や管理はどのようなものですか。また、b.コロナ後から配慮している事項、あるいは、c.今後考えている事項はありますか。いずれかに○をつけて下さい。として、18の質問項目を作成し、各企業から解答を得ることができた。

これらの研究から導き出されたことは、業種にもよるが新型コロナウイルスの影響を受けていても、生産性

が少なくなった企業ではなかった。生産が上がり続け、障がいをもつ者も含めた従業員と力を合わせて乗り切っている企業や、仕事をわかりやすくする工夫を図ったことで障がい者以外の従業員もわかりやすくなり障がい者への指示がしやすくなった企業、HPからの購入などこれまでの販売経路とは異なる経路を打ち出し販売実績を伸ばす企業なども見受けられた。多くの企業は障がい者雇用をするなかで、新型コロナウイルスの影響を受ける以前から障がいに対する配慮等は実施していたことがわかった。

本研究は、対象企業が11社と対象者数が少なく、十分に検証できているとは言い難い。しかし、新型コロナウイルスの影響があってもこれまでの障がい者雇用の工夫と従業員との対話を活かして、障がい者雇用の継続をしていたこと、企業がよりその理念を全うしていると考えていることが明らかとなった。この調査の結果は、意義深いととらえている。なぜなら、障がい者雇用における工夫と従業員との対話を行う柔軟な企業体制は、社会的影響を受けている障がい者のみならず障がい者雇用を考える企業にも仕事を継続していく重要性を示しているからである。

—引用・参考文献—

片山優美子(2017)「重度精神障害者の一般企業への就職と定着支援に関する研究—Individual placement and Supportの有効性に関する量的・質的調査—」東洋大学大学院 博士後期課程 社会福祉学博士論文 総頁数289頁

NPO法人ディーセントワーク・ラボ(2019)「平成30年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業 障がい者就労・雇用を導くリーダー研修事業報告書『ディーセント・ワークを目指した職場と組織をつくる—ポジティブな障がい者雇用にみるティール組織』」

片山優美子(2020)「一般企業への重度精神障害者の就職をどう支援していくか—包括的な支援のためにIPSを利用する—」ミネルヴァ書房、総頁数203頁